

A: 9割以上の達成状況である。かなり高いレベルできている。
 B: 6割以上9割未満の達成状況である。概ね規準に達している。
 C: 2割以上6割未満の達成状況である。規準には達していない。
 B・Dの間の評価。
 D: 2割未満の達成状況である。ほとんどできていない。

学校名	新座市立西堀小学校
実施日	令和4年1月27日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果について可能な範囲でご記入ください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、児童の良さを認め、肯定的な行動支援を積極的に行い、もうひとがんばりできる子の育成に取り組んでいる。	B	中間「3. 15」→本評価「3. 26」 校内研修で学校全体で取り入れ始めたPBS(ポジティブな行動支援)により、学年・学級を問わず、児童に対して積極的に認める声かけを行うようになり、教職員の意識の変容が見られるようになってきた。それにともない、授業やその他の行事等において、自信をもって行動したり、のびのびと活動に臨んだりする児童が少しずつ増えてきた。	B	・子供たちから「先生に褒めてもらった。」と嬉しそうな報告を聞き、声かけしていただいているんだなと感じている。 ・子供たちの変化はすぐに表れるものではないので継続して取り組んでほしい。 ・学年を問わず、児童を気にかけて下さっている。 ・PBSを取り入れた指導はとても大切で引き続き指導を続けてほしい。 ・行動支援を積極的に行っているのが子供の様子を見ていてわかる。
2	学校は個に応じた指導・支援を行い、組織的に児童の基礎的学力(知識・技能)、思考力・判断力・表現力及び学びに向かう態度を定着させるよう実践している。	B	中間「3. 15」→本評価「3. 11」 学力テストの結果を組織で分析し、課題解決への方策を立てて個に応じた指導へと繋げている。少人数指導において、個別に声をかけ、きめ細やかな支援を行うことにより、基礎基本の定着を図っている。全学年Chromebookを活用して思考力を高める授業の実践を進めており、主体的に学習に臨む児童が多く見られるようになってきた。	B	・担任一人で個に応じた指導は限界があるので、サポート体制の構築が充実した取組になるのではないかと。 ・補習授業や放課後学習をしていただき、苦手な子に丁寧な支援をされていると感じている。 ・少人数制のおかげで児童も定着を図りやすい。 ・PBSの考え方を個別指導でも生かし、効果的な声かけ支援を意図的に実施し、自信をもたせ、意欲化を図ってほしい。 ・授業参観で判断力を養っていることがわかる。
3	学校は、ICTを積極的に活用し、個に応じた指導を基盤に、児童が主体的に学習できるよう工夫している。	B	中間「3. 05」→本評価「3. 26」 教師自身の技術向上をめざし夏季休業中にICT活用の校内研修を行った。また、先進的な教員の授業を互いに見合ったり、放課後に教え合ったりすることをとおして、全体的に技術力の向上を図ることができ、実際に授業改善に繋がっていると考えられる。児童のChromebook活用能力も向上しており、互いの考えを比較したり、思考を整理したりするなどICTを活用して主体的に学習に臨む姿が見られるようになってきた。	B	・タブレット等を使った授業を得意な教師が授業公開し、校内で推進していくとよいのでは。 ・タブレットに対する子供の興味関心が大きい。ネット環境に繋がることで学習から離れた使い方をする児童もいると思うので、使用方法について継続して注意喚起してほしい。 ・指導のおかげで児童が使用方法を理解できていると感じる。 ・リモート授業の際に、1年生でもクラスルームに入り積極的に取り組む姿に驚いた。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	中間「3. 15」→本評価「2. 79」 主任等への負担に偏りがあるように感じている教員も見られるので、仕事の平均化など工夫改善する必要がある。職員の異動等による入れ替わりにも対応できるよう引継ぎを確実に進めていく必要がある。そのためにも分掌ごとに振り返り、分掌外からの意見も聞いたりするなどの場を設け、各々がより責任感をもって取り組めるようにしていく。	B	・組織の一員であることを自覚し、若手教師は中堅教師に指導をうけながら、積極的に分掌に取り組んでほしい。失敗しても責めずに互いにフォローし合ってほしい。 ・同学年の横のつながりを強化してほしい。授業の進捗や宿題の量など足並みをそろえるべきである。 ・先生によって持ち物などのルールが違うので、校内で統一してほしい。 ・担当の先生が保護者にもわかるとよいのでは。 ・一人の負担にならぬようできる人ができることを責任を持ってやるのが好ましいと感じる。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	中間「3. 25」→本評価「3. 16」 学校評価や学校運営協議会等での様々な意見をもとに教育活動を振り返り、具体策を講じて改善を図るなどして学校経営を行っている。	B	学校評価が次に生かされているのか保護者が知る機会が少ないと感じる。 ・今後の改善に期待したい。

6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう。危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	中間「2. 80」→本評価「2. 63」 不審者対応訓練の実施や安全教育を充実させ、教職員及び児童の危機管理能力を高める。年間計画では3学期に予定されているが、本校の立地を考えると年度始めに実施すべきと考える。敷地内に公道があるため、できれば門の施錠もしくは警備員の設置を検討すべきである。	B	・校門は原則閉じた方がよいです。自治会等にご理解いただき、校舎の裏側は歩いて通行すべきであることをご協力いただくとよい。 ・危機管理意識を一人一人がもち、共通指導を重ねてほしい。 ・保護者プレートの活用、保護者への注意喚起の徹底などもう少し積極的に動くべきである。 ・出入りが自由なので不審者対策には不安を感じている。保護者証の徹底を呼びかけてほしい。 ・訓練をやるのが難しい状況なので、学級の中でしっかりと身につく指導をお願いしたい。 ・敷地内に公道があるため、大目に見てしまう傾向にあるが、看板のみならず警備をしっかり行ってほしい。
---	---	---	--	---	---

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	中間「3. 25」→本評価「3. 26」 教員は西堀小の学習のルールを共通理解し、授業を展開している。	A	・子供たちが興味を示し、理解したいと思う授業を行っていると感じる。 ・学年会で指導の在り方を意見交流し合い、指導力を向上させてほしい。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	中間「3. 15」→本評価「3. 16」 どの教科においても言語活動を意識して授業を行っている。また、思考力や表現力を高めるようなICTの活用の仕方も、教員同士で情報交換しながら研鑽を積んでいるところである。	A	・家庭に授業内容を一生懸命説明しようとする姿を見ると、先生方の努力がうかがえる。 ・子供が積極的に挙手し、自分の意見を発表していると聞いている。 ・一時間の授業の中で、短時間でも対話的学習を意図的に取り入れ、表現力を育ててほしい。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	中間「3. 25」→本評価「3. 21」 新しい学習指導要領に変わり戸惑うこともあったが、年次研修や校内研修を重ねながら互いに学び合っている。	A	・学習指導要領に基づいた指導かどうかは保護者にとってわかりづらいと感じる。 ・個々の能力に合った指導を行い、一人一人がよく分かる授業であってほしい。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	中間「3. 10」→本評価「3. 05」 グローバル化に対応できるよう、英語の授業の充実はもちろんのこと、他の教科とも横断的に学習をつなぎ、国際理解教育をあらゆる場面で推進していく必要がある。	B	・日常生活に外国語が少しずつ使われると子供たちも自然と外国語が身につくのではないかと感じる。 ・英語に対する苦手意識がなく、家でも積極的に英語を楽しんでいる。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	中間「2. 95」→本評価「2. 89」 教職員がまず手本となるように大きな声であいさつをしたり、正しい言葉遣いを行うことが重要である。校内研修によるポジティブな行動支援の一環で「あいさつ運動」を取り入れ始め、結果、全学年において進んであいさつできる児童が増えてきた。「です・ます」をつけるなどの言葉遣いにおいてはまだまだ課題があるので、言い直しをさせるなど、粘り強く指導していく。	B	・元気にあいさつできる児童は多いと感じる。 ・訪問時にはたくさんの児童にあいさつをしてもらっている。会議室使用中も「掃除をしてもよいですか。」と敬語で話してくれた。 ・学校外でも進んで気持ちの良いあいさつをしてくれ、園児たちにも温かい声がけをしてくれる。 ・親としてもあいさつの大切さを伝えていきたい。 ・授業中における「です。ます。」の言葉使いをトレーニングすることで、場に応じた言葉使いを身に付けるようになる。家庭内での指導も必要。 ・朝の声がけで子供たちが元気に言葉を交わしてくれるのがうれしい。地域の人に対してしっかりした言葉使いに気持ちの良さを感じる。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	中間「3. 20」→本評価「3. 16」 学級経営において、互いを認め合う温かい雰囲気作りが不可欠である。まずは教師が手本となり、一人一人を認め、積極的に褒めるなどの行動支援を行っていく。また、日頃の教育活動全般をとおして、いじめは絶対にいけないということを指導していくことも重要である。	B	・様々な環境により難しいと感じる。意地悪な行動には心の問題があり、ケアには長い時間を要する。家庭との連携が必要。 ・子供に寄り添って支援していただいている。しかし意地悪なことをしている子の保護者が現状を把握しておらず、しないように指導すべきと感じる。 ・性格が合う合わないはあるが、仲間として取り組むときは取り組んでほしいと先生からの話があり、共感した。 ・学校は人間関係の在り方を学ぶ場でも有り、できる限り子供たちに解決策を考えさせ、実行させる方向で教師は見守りつつ、悪いことはきちんと共通指導することが望ましい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	中間「2. 95」→本評価「3. 00」 整理整頓や服装など、普段から手本となれるよう教員同士で意識を高め合っていければ良いと思う。	B	・若い先生には兄や姉として導いていただけるのも親としてはありがたい。 ・言葉遣いが乱暴な先生がいると聞くことがある。 ・規律はよく守らせていただいていると感じる。家庭でも大人が手本となるようにしたい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	中間「3. 20」→本評価「2. 84」 積極的に児童と外遊びをする教員がいるので、外で意欲的に遊ぶ児童の姿が見られる。コロナ禍で体育的行事が限られているところではあるが、体育の授業や休み時間を有効に使い、児童の体力向上に努めていきたい。	A	・外で子供と一緒に遊んで下さる先生方には感謝しています。 ・元気に外で遊ぶ声がよく聞こえてくる。 ・地域で活発に遊ぶ姿があまりみられなくなった。体育や外遊びなどの機会を増やし、活発な運動への取組をお願いしたい。 ・運動会では短時間であのような表現ができ、先生方の指導の賜物であると感じる。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	中間「3. 15」→本評価「2. 84」 ランチタイムニュースを活用し、児童の食への関心をさらに高めていく。 学級経営など、様々なあると思うが、給食は基本的に完食をめざしたいが、無理に食べさせるのではなく、頑張りたいと思えるように指導していくことも必要である。	B	・苦手なもので一口は食べてみる、作ってくれた人のことを思うなど、当たり前のことを学校でも家庭でも声をかけていくことが必要。 ・黙食の中でも放送などで楽しさやおいしさを感じていると思う。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	中間「3. 35」→本評価「3. 32」 懇談会や面談等で出た意見を把握し、可能な範囲で対応しようと努めている。	A	・どんな意見があり、どのように対応されているのかが「見える化」されると保護者の理解が深まる。 ・基本的によく対応していただいているが、来年度はもっと意見交換できることを願う。

17	<p>学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。</p>	A	<p>中間「3. 55」→本評価「3. 63」 ホームページを今後もこまめに更新し、児童の学校での生活が家庭に届くように努める。学校だよりも児童の写真や関心のもてる記事を載せるなどし、地域の方々にも広く情報が伝わるようにする。特に本年度は、google classroomを活用して、カラーの学級だよりのデータを提供したり、連絡したりするなど、情報提供の幅が広がった。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で学校へ伺うことが難しい中、HPのこまめな更新などで学校の様子を知れることは、保護者や地域の方にとってとても嬉しいことだと感じている。 ・コロナ禍により授業参観がないので、学級だよりがとてもありがたい。 ・学校の様子がよくわかり、学ばせていただいている。 ・学校と地域の連携がよくとれており、学校や家庭の目の届かないところで地域がフォローできる状況が作られている。 ・クラスルームが充実していて学校の普段の様子が見られてよい。 ・校長先生の文章が分かりやすく、子育て家庭にとっても貴重な話題である。
18	<p>学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。</p>	B	<p>中間「3. 25」→本評価「3. 05」 コロナ禍でなかなか連携して活動することができなかったが、図書室掲示や見守り活動、芋掘りや花壇の手入れなど工夫しながら様々な方々に支援していただいている。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に活動してくれる方がとても多い中、コロナ禍が続くことは大変残念なこと。一日でも早く収束してこれまで以上に学校、地域、保護者の方々と手を携えて子供たちを見守って行ける日が来ることを願うばかりです。 ・不審者対策には不安を感じている。 ・学校、PTA、学校応援団、町内会などそれぞれの組織の連携がとれており、実質的なよい関係づくりが効果をあげている。